

科目名	プログラミング実習				
担当教員	村島 敏治		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科／IT大学併修科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	116
授業概要、目的、 授業の進め方	Android Studio の使用法とKotlinを学習し、Androidスマートフォンアプリを作成する。				
授業形態	対面授業にて実施				
学習目標 (到達目標)	Androidスマートフォンアプリの課題を作成できる。				
テキスト・教材・ 参考図書・その他 資料	SBクリエイティブ はじめてのAndroidプログラミング第4版				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1-2	Android Studio 起動とプロジェクトの作成		プロジェクトの作成を学習する。		
3-8	Android Studio テストアプリ作成①		アクティビティ、画面の作成を学習する。		
9-14	Android Studio テストアプリ作成②		画像の表示を学習する。		
15-20	Kotlin言語の文法		if、When、for、コレクション、関数、ラムダ式を学習する。		
21-24	Android Studio じゃんけんアプリの作成①		結果画面を作成する。		
25-30	Android Studio じゃんけんアプリの作成②		ImageViewを学習する。ConstraintLayoutを学習する。		
31-36	Android Studio じゃんけんアプリの作成③		画面遷移を学習する。		
37~42	Android Studio カウントダウンタイマアプリの作成①		画面を作成する。		
43~50	Android Studio カウントダウンタイマアプリの作成②		タイマを学習する。		
51~58	Android Studio カウントダウンタイマアプリの作成③		サウンド再生を学習する。		
59-107	課題制作		AndroidStudioにて、実習課題を制作する。		
114-116	課題発表会		作成した実習課題の発表を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
提出課題75%、平常点25% 成績評定基準は、A(80点以上)・B(65点以上)・C(51点以上)・D(50点以下)とする。			実習課題の提出期限を厳守する。		
実務経験教員の経歴	エンジニアとしてソフトウェア開発の現場において1 1 年間係わっていた				

科目名	プログラム設計				
担当教員	村島 敏治		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科／IT大学併修科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40
授業概要、目的、授業の進め方	フローチャート、疑似言語の使い方を習得し、基本的なアルゴリズムを学習する。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)	探索処理や整列処理などの代表的なアルゴリズムの手順、特徴を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウイネット アルゴリズムとデータ構造、その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～2	アルゴリズム入門		流れ図の記号を学習し、問題演習をすることで理解を深める。		
3～5	流れ図の基本パターン		流れ図の書き方の基本を学習し、問題演習をすることで理解を深める。		
6～7	疑似言語の基本パターン		疑似言語の記述形式を学習する。		
8～11	計算のアルゴリズム		合計、平均、べき乗などのアルゴリズムを学習し、問題演習をすることで理解を深める。		
12～14	配列操作		1次元配列、2次元配列などを用いたアルゴリズムを学習し、問題演習をすることで理解を深める。		
15～18	探索のアルゴリズム		線形探索、ブロック探索、他を学習し、問題演習をすることで理解を深める。		
19～25	整列のアルゴリズム		基本選択法、基本交換法、他の整列アルゴリズムを学習し、問題演習をすることで理解を深める。		
26～34	データ構造		配列、リスト、スタック、キュー2分木などを学習し、問題演習をすることで理解を深める。		
35～40	実践アルゴリズム		基数変換、経路選択、他のアルゴリズムを学習し、問題演習をすることで理解を深める。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果60%、平常点40% 成績評定基準は、A(80点以上)・B(65点以上)・C(51点以上)・D(50点以下)とする。			問題演習を通して、理解を深める。 知識・理解が不十分な場合は、補習授業を行うことがある。		
実務経験教員の経歴	エンジニアとしてソフトウェア開発の現場において11年間係わっていた				

科目名	春期対策（応用情報午前）				
担当教員	玉橋 修一		実務授業の有無	無	
対象学科	情報システム科／IT大学併修科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	36
授業概要、目的、 授業の進め方	応用情報技術者試験の合格に必要な知識を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	応用情報技術者試験レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	応用情報技術者試験 過去問題（午前問題）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～6	第1回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
7～12	第2回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
13～18	第3回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
19～24	第4回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
25～30	第5回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
31～36	第6回模擬試験 解説		問題演習の解説。		

科目名	春期対策（応用情報午後）				
担当教員	村島 敏治		実務授業の有無	無	
対象学科	情報システム科／IT大学併修科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	54
授業概要、目的、 授業の進め方	応用情報技術者試験の合格に必要な知識を学ぶ。				
学習目標 （到達目標）	応用情報技術者試験レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	応用情報技術者試験 過去問題（午前問題）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～6	第1回模擬試験		問題演習。		
7～12	第1回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
13～18	第2回模擬試験		問題演習。		
19～24	第2回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
25～30	第3回模擬試験		問題演習。		
31～36	第3回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
37～42	第4回模擬試験		問題演習。		
43～48	第4回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
49～54	第5回模擬試験		問題演習。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果60%、平常点40%			知識・理解が不十分な場合は、補習授業を行うことがある。		
成績評定基準は、A(80点以上)・B(65点以上)・C(51点以上)・D(50点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		－			

科目名	マネジメントと情報化				
担当教員	桑原 厚		実務授業の有無	無	
対象学科	情報システム科／IT大学併修科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	63
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 開発技術に関する知識を習得する。 2. ストラテジー、マネジメントに関する知識を習得する。				
学習目標 (到達目標)	1. システム開発、マネジメントの概要を理解する。2. 情報処理技術者能力認定試験3級レベルの知識を習得する。3. 情報処理技術者能力認定試験2級レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ウイネット マネジメントと情報化＋情報処理技術者能力認定試験3級問題集＋情報処理技術者能力認定試験2級問題集、その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	システム開発とマネジメント		レビュー、ウォーターフォールモデル、スパイラルモデル、アジャイルなどを学ぶ。		
4～6	システム開発とマネジメント		テスト駆動開発、ベアプログラミング、決定表、E-R図、UML、クラス図、シーケンス図などを学ぶ。		
7～9	システム開発とマネジメント		ヒューマンインタフェース、コード設計、モジュール分割、モジュール強度、モジュール結合度などを学ぶ。		
10～12	システム開発とマネジメント		オブジェクト指向、カプセル化、ポリモフィズム、などを学ぶ。		
13～15	システム開発とマネジメント		ホワイトボックステスト、命令網羅、PMBOK、アローダイアグラムなどを学ぶ。		
16～18	サービスマネジメントとシステム戦略		ITIL、SLA、サービスの管理と移行などを学ぶ。		
19～21	サービスマネジメントとシステム戦略		システム監査、ガバナンス、システム戦略、などを学ぶ。		
22～25	サービスマネジメントとシステム戦略		クラウドサービス、ビッグデータ、要件定義などを学ぶ。		
26～29	企業と経営戦略		コーポレートアイデンティティ、コーポレートガバナンス、ワークライフバランス、などを学ぶ。		
30～33	企業と経営戦略		経営組織、経営戦略手法、シナジー効果、イノベーション、などを学ぶ。		
34～37	企業と経営戦略		コアコンピタンス、M&A、SWOT分析、マーケティングなどを学ぶ。		
38～41	企業と経営戦略		R&A、Society5.0、MRP、CAD、EDI、などを学ぶ。		
42～45	OR・IE		順列、組合せ、確率、分散、標準偏差、待ち行列、線形計画法、QC、などを学ぶ。		
46～49	企業会計		損益分岐点、財務諸表、キャッシュフロー、などを学ぶ。		
50～53	法務と標準化		知的財産権、著作権、などを学ぶ。		
54～57	法務と標準化		セキュリティ基本法、個人情報保護法、などを学ぶ。		
58～63	法務と標準化		プロバイダ責任制限法、労働基準法、労働者派遣法、下請法、コンプライアンス、ISO、JIS、などを学ぶ。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果60%、平常点40%					
成績評定基準は、A(80点以上)・B(65点以上)・C(51点以上)・D(50点以下)とする。			開発技術、セキュリティ、マネジメント、ストラテジーに関する知識を、偏りなく習得する。		
実務経験教員の経歴	－				

科目名	C言語実習Ⅰ				
担当教員	村島 敏治		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科／IT大学併修科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	120
授業概要、目的、授業の進め方	課題プログラムの作成を通し、C言語基本文法の理解を深める。同時に実行、テスト、デバッグの手法を理解する。C言語の授業時間と補完しながら進める。				
学習目標 (到達目標)	実習課題のプログラムを作成、実行、テストできる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～6	printf 定数出力に関する実習		課題プログラムを作成し提出する。		
7～12	printf 変数の内容出力に関する実習		課題プログラムを作成し提出する。		
13～18	scanfに関する実習		課題プログラムを作成し提出する。		
19～30	if文に関する実習		課題プログラムを作成し提出する。		
31～40	elseifとswitch文に関する実習		課題プログラムを作成し提出する。		
41～60	while文に関する実習		課題プログラムを作成し提出する。		
61～80	for文に関する実習		課題プログラムを作成し提出する。		
81～100	配列に関する実習		課題プログラムを作成し提出する。		
101～120	文字型配列に関する実習		課題プログラムを作成し提出する。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
提出課題75%、平常点25%			実習課題の提出期限を厳守する。		
成績評定基準は、A(80点以上)・B(65点以上)・C(51点以上)・D(50点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	エンジニアとしてソフトウェア開発の現場において11年間係わっていた				

科目名	午前免除対策				
担当教員	片野 高史、玉橋 修一		実務授業の有無	無	
対象学科	情報システム科／IT大学併修科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	108
授業概要、目的、 授業の進め方	基本情報技術者試験 免除対象講座認定制度 終了試験の合格に必要な知識を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	基本情報技術者試験 免除対象講座認定制度 終了試験レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	基本情報技術者試験 過去問題（午前問題）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	第1回模擬試験		問題演習。		
4～18	第1回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
19～21	第2回模擬試験		問題演習。		
22～36	第2回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
37～39	第3回模擬試験		問題演習。		
40～54	第3回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
55～57	第4回模擬試験		問題演習。		
58～72	第4回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
73～75	第5回模擬試験		問題演習。		
76～90	第5回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
91～93	第6回模擬試験		問題演習。		
94～108	第6回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果60%、平常点40%			知識・理解が不十分な場合は、補習授業を行うことがある。		
成績評定基準は、A(80点以上)・B(65点以上)・C(51点以上)・D(50点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	エンジニアとしてソフトウェア開発の現場において11年間係わっていた				

科目名	特別講義（情報処理2級対策）				
担当教員	玉橋 修一		実務授業の有無	無	
特別講義（情報処理2級）	情報システム科／IT大学併修科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	18
授業概要、目的、 授業の進め方	情報処理技術者能力認定試験 2 級の合格に必要な知識を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	情報処理技術者能力認定試験 2 級レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ウイネット 情報処理技術者能力認定試験 2 級問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	第 1 部演習問題		問題演習と解説。		
4～6	第 2 部演習問題 情報セキュリティ		問題演習と解説。		
7～9	第 2 部演習問題 コンピュータシステム		問題演習と解説。		
10～12	第 2 部演習問題 マネジメント		問題演習と解説。		
13～15	第 2 部演習問題 ストラテジ		問題演習と解説。		
16～18	第 2 部演習問題 データ構造及びアルゴリズム		問題演習と解説。		

科目名		秋季国家試験対策（午後）					
担当教員		村島 敏治		実務授業の有無		無	
対象学科		情報システム科／IT大学併修科	対象学年		1	開講時期	前期、後期
必修・選択		必修	単位数			時間数	144
授業概要、目的、 授業の進め方		基本情報技術者試験の合格に必要な知識を学ぶ。					
学習目標 （到達目標）		基本情報技術者試験レベルの知識を習得する。					
参考図書・その他 資料		基本情報技術者試験 過去問題（午前問題）					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1～6	第 1 回模擬試験				問題演習。		
7～12	第 1 回模擬試験 解説				問題演習の解説。		
13～18	第 2 回模擬試験				問題演習。		
19～24	第 2 回模擬試験 解説				問題演習の解説。		
25～30	第 3 回模擬試験				問題演習。		
31～36	第 3 回模擬試験 解説				問題演習の解説。		
37～42	第 4 回模擬試験				問題演習。		
43～48	第 4 回模擬試験 解説				問題演習の解説。		
49～54	第 5 回模擬試験				問題演習。		
55～60	第 5 回模擬試験 解説				問題演習の解説。		
61～66	第 6 回模擬試験				問題演習。		
67～72	第 6 回模擬試験 解説				問題演習の解説。		
73～78	第 7 回模擬試験				問題演習。		
79～84	第 7 回模擬試験 解説				問題演習の解説。		
85～90	第 8 回模擬試験				問題演習。		
91～96	第 8 回模擬試験 解説				問題演習の解説。		
97～102	第 9 回模擬試験				問題演習。		
103～108	第 9 回模擬試験 解説				問題演習の解説。		
109～114	第 1 0 回模擬試験				問題演習。		
115～120	第 1 0 回模擬試験 解説				問題演習の解説。		
121～126	第 1 1 回模擬試験				問題演習。		
127～132	第 1 1 回模擬試験 解説				問題演習の解説。		
133～138	第 1 2 回模擬試験				問題演習。		
139～144	第 1 2 回模擬試験 解説				問題演習の解説。		
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
検定結果60%、平常点40%					知識・理解が不十分な場合は、補習授業を行うことがある。		
成績評定基準は、A(80点以上)・B(65点以上)・C(51点以上)・D(50点以下)とする。							
実務経験教員の経歴					－		

科目名	H T M L 実 習				
担当教員	玉橋 修一		実務授業の有無	無	
対象学科	情報システム科／IT大学併修科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	47
授業概要、目的、 授業の進め方	HTMLの概要を理解し、オリジナルのHPを作成する知識・技術を習得する。				
学習目標 (到達目標)	HP制作の課題を作成できる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ウイネット HTML＋CSSクイックマスターHTML5対応				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Webの基礎知識		インターネット、WWW、ブラウザ、PC・携帯・スマートフォンなどを学ぶ。		
2～3	コンテンツ制作基礎①		Webページの制作手順、タグと基本構造、見出しと本文などを学ぶ。		
4～5	コンテンツ制作基礎②		CSSの基本構造と書式、CSSの設定場所、スタイルの定義などを学ぶ。		
6～7	コンテンツ制作基礎③		フォントの指定、色の指定、領域の指定を学ぶ。		
8～9	コンテンツ制作基礎④		画像の形式、画像の設定、リンクの設定などを学ぶ		
10～11	コンテンツ制作基礎⑤		リスト、テーブル、フォームなどを学ぶ。		
12	コンテンツ制作基礎⑥		JavaScriptの基礎を学ぶ。		
13～14	ページデザイン①		文字のレイアウト、ページレイアウトなどを学ぶ。		
15～17	ページデザイン②		モバイルサイトのデザインを学ぶ。		
18～20	リッチコンテンツデザイン		HPにおけるオーディオ、ビデオなどを学ぶ。		
21～42	課題制作		HP作成の実習課題を制作する。		
44～47	課題発表		作成したHPのプレゼンテーション及びその準備を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
提出課題75%、平常点25% 成績評定基準は、A(80点以上)・B(65点以上)・C(51点以上)・D(50点以下)とする。			実習課題の提出期限を厳守する。		
実務経験教員の経歴		－			

科目名	表計算応用				
担当教員	玉橋 修一		実務授業の有無	無	
対象学科	情報システム科／IT大学併修科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	34
授業概要、目的、 授業の進め方	Excel表計算処理技能認定試験２級の合格に必要な知識を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	Excel表計算処理技能認定試験２級レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ウイネット Excel表計算処理技能認定試験１・２級問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	実技練習問題１		問題演習と解説。		
4	テーマ別知識練習問題１・２		問題演習と解説。		
5～7	実技練習問題２		問題演習と解説。		
8	テーマ別知識練習問題３・４		問題演習と解説。		
9～11	実技練習問題３		問題演習と解説。		
12	テーマ別知識練習問題５・６		問題演習と解説。		
13～15	模擬問題１		問題演習と解説。		
16	テーマ別知識練習問題７		問題演習と解説。		
17～20	模擬問題２		問題演習と解説。		
21～25	模擬問題３		問題演習と解説。		
26～30	模擬問題４		問題演習と解説。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果60%、平常点40%			問題演習はホームワークとなる場合がある。		
成績評定基準は、A(80点以上)・B(65点以上)・C(51点以上)・D(50点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		－			

科目名	表計算基礎				
担当教員	玉橋 修一		実務授業の有無	無	
対象学科	情報システム科／IT大学併修科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	Excel表計算処理技能認定試験 3 級の合格に必要な知識を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	Excel表計算処理技能認定試験 3 級レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウイネット Excel2016クイックマスター、Excel表計算処理技能認定試験 3 級問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～2	Excelの基本、データの編集		Excelの画面構成、画面操作、セルの選択、新規ブックの作成、数式の入力、データの移動とコピーなどを学ぶ。		
3～5	表の編集、ブックの印刷		罫線の設定、セルの書式設定、表示形式の指定、表示モードの切換え、印刷範囲の指定などを学ぶ。		
6～7	グラフと図形の作成、ブックの利用と管理		グラフの作成、図形の作成、ワークシートの管理、ウインドウの操作などを学ぶ。		
8～10	関数		統計関数、数学／三角関数、論理関数。日付関数などを学ぶ。		
11～12	データベース機能		リストの作成、並べ替え、データの抽出、小計の挿入などを学ぶ。		
13～17	練習問題 1 ～3		問題演習と解説。		
18～22	模擬問題 1 ～3		問題演習と解説。		
23～30	模擬問題4～7		問題演習と解説。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果60%、平常点40%			問題演習はホームワークとなる場合がある。		
成績評定基準は、A(80点以上)・B(65点以上)・C(51点以上)・D(50点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		－			

科目名	午前対策				
担当教員	玉橋 修一		実務授業の有無	無	
対象学科	情報システム科／IT大学併修科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	57
授業概要、目的、 授業の進め方	応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、ITパスポート試験などの情報処理技術者試験に合格するための基礎知識を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、ITパスポート試験などに共通する基礎知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	情報処理技術者試験 過去問題（応用情報午前、基本情報午前、ITパスポート試験、他）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	第1回模擬試験		問題演習。		
4～12	第1回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
13～15	第2回模擬試験		問題演習。		
16～24	第2回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
25～27	第3回模擬試験		問題演習。		
28～36	第3回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
37～39	第4回模擬試験		問題演習。		
40～48	第4回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
49～51	第5回模擬試験		問題演習。		
52～57	第5回模擬試験 解説		問題演習の解説。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果60%、平常点40%			課題の提出期限を厳守する。		
成績評定基準は、A(80点以上)・B(65点以上)・C(51点以上)・D(50点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	－				

科目名		就職実務				
担当教員		片野 高史、村島 敏治		実務授業の有無	無	
対象学科		情報システム科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	60
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 就職活動に必要な知識、情報を得る。 2. 筆記試験練習（一般常識、SPI、CAB・GAB）を行なう。 3. 模擬面接（面接練習）を行なう。				
学習目標 (到達目標)		実際に就職活動を行なえる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		ウイネット 勝つための就職ガイドSUCCESS				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	就職活動の心構え①			なぜ就職するのか、企業が求める人材とは、身だしなみなどを学ぶ。		
2	就職活動の心構え②			就職活動の流れ、就職活動のルールと諸注意、求職登録と校内模擬面接などを学ぶ。		
3～4	自分と職業を理解する①			ライフスタイルを考える、自己分析で考えるポイント、自己PRの作り方などを学ぶ		
5～7	自分と職業を理解する②			業種と職種、仕事と関連資格、志望動機の作り方などを学ぶ。		
8～9	情報収集のポイント、企業研究の方法			情報の収集方法と活用ポイント、就職課の利用、就職情報サイトの利用、求人票の見方などを学ぶ。		
10	作成書類①			エントリーシートの書き方、履歴書の書き方などを学ぶ。		
11	作成書類②			履歴書の下書きを作成する。		
12	企業訪問			企業訪問とは、企業訪問の準備、アポイントメントの取り方などを学ぶ。		
13	就職試験			就職試験の概要などを学ぶ。		
14	面接試験対策①			面接試験の形式、面接試験の受け答えなどを学ぶ。		
15	面接試験対策②			圧迫面接、スピーチの訓練、本番前の自己チェックなどを学ぶ。		
16	筆記試験対策			適性検査、一般常識、作文・小論文などを学ぶ。		
17	受験後の報告			内定したときにすべきこと、不合格だったときの振り返りなどを学ぶ。		
18～19	履歴書の作成			履歴書の清書を完成する。		
20～22	求職票の作成			求職票を完成する。		
23～35	筆記試験問題演習			一般常識試験、SPI、CAB・GABなどの問題演習を行なう。		
36～54	面接準備、練習			面接の準備をし、模擬面接を行なう。		
55～60	企業研究・業界研究			採用試験に備え、目的の業界・職種・企業の理解を深める。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験60%、平常点40% 成績評定基準は、A(80点以上)・B(65点以上)・C(51点以上)・D(50点以下)とする。				履歴書、求職票の提出期限を厳守する。		
実務経験教員の経歴		－				

科目名		Java				
担当教員		片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科		情報システム科／高度ITシステム科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数		時間数	63
授業概要、目的、 授業の進め方		Javaの基礎知識とオブジェクト指向を学ぶ。				
授業形態		対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)		Javaの基礎を学び、オブジェクト指向プログラミングの理解を深める。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		株式会社インフォテック・サーブ 『Javaプログラミング』				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～4	Javaプログラムの基本			プログラムの基本形と標準出力、変数を学ぶ。		
5～7	演算子			様々な演算子、入力の読み込みと例外処理を学ぶ。		
8～11	配列			一次元配列、二次元配列を学ぶ。		
12～15	制御構造（選択）			選択構造（if文、if～else文、else if文、switch文）を学 ぶ。		
16～19	制御構造（反復）			選択構造（while文、do～while文、break文、continue 文、for文、拡張for文）を学ぶ。		
20～22	メソッド			メソッドの基本、メソッドのオーバーロード（多重定義） について学ぶ。		
23～24	オブジェクト指向とクラス定義			オブジェクト指向とは？、クラス定義を学ぶ。		
25～31	オブジェクトの生成とインスタンスの利用			オブジェクトの生成、インスタンスの利用を学ぶ。		
32～35	コンストラクタ			コンストラクタの利用、thisキーワードを学ぶ。		
36～39	アクセスレベルとパッケージング			アクセス就職子、パッケージングを学ぶ。		
40～44	参照型の一次元配列とArrayListクラス			参照型の一次元配列、ArrayListクラスを学ぶ。		
45～49	クラス拡張			継承、サブクラスの定義とインスタンス化を学ぶ。		
50～54	オーバーライド			メソッドの再定義、super()を学ぶ。		
55～59	インターフェース			インターフェースとは？、インターフェースの拡張を学 ぶ。		
60～63	ポリモフィズ			ポリモフィズとは？、ポリモフィズの実現を学ぶ。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題または試験75%、平常点25% 提出物、学習意欲、授業態度などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)と する。				課題の提出期限を守ること。		
実務経験教員の経歴	オープン系システム開発運用において7年間、Web系に8年間関わっていた					

科目名	SQL				
担当教員	片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科／高度ITシステム科/情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	SQL言語を使いデータベースの操作方法を学習し、テキストを用いてSQLのコマンドや文法などの基礎知識を深める。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)	SQLの文法とコマンドを学習し、データベースを操作できるスキルを養う。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	技術評論社　『SQL書き方ドリル』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～2	基本操作		SQLを使ったデータベースの操作方法を学ぶ。		
3～4	ひとつのテーブル		単テーブルでのSQL文を学ぶ。		
5～6	複数のテーブル		複数テーブルでのSQL文を学ぶ。		
7～9	追加・更新・削除		レコードの追加、更新、削除を学ぶ。		
10～15	応用問題		実践的なケースを通じてSQL文を学び応用力を養う。		
16～30	練習問題		反復練習によってSQL文を身に着ける。		
31～40	SQLサーバーの導入		インストールと設定、基本操作を学ぶ。		
41～60	SQLサーバーの運用		実際にSQL文を入力し実際の操作方法を学ぶ。		
61～70	SQLサーバーの保守		データベースのメンテナンス方法を学ぶ。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
課題または試験75%、平常点25% 提出物、学習意欲、授業態度などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。			課題の提出期限を守ること。		
実務経験教員の経歴	オープン系システム開発運用において7年間、Web系に8年間関わっていた				

科目名		SQL Server				
担当教員		片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科		情報システム科／高度ITシステム科/情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	33
授業概要、目的、 授業の進め方		SQLサーバーとSQLサーバーマネージメントスタジオをインストールし設定し、それらを使いデータベースの仕組みや操作方法の習得を図り、テキストを用いてSQLコマンドや文法などの基礎知識を深める。				
授業形態		対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)		SQLの文法とコマンドを学習し、SQLサーバーを使つてのデータベース操作方法を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		ソシム株式会社 『SQL Server 2016の教科書』				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～3	SQLサーバーの概要とインストール			SQLサーバーの概要、インストールと環境設定をする。		
4～6	インストール後の構成			管理ツール、動作確認、フォルダ構成を確認する。		
7～8	SQLサーバーを使ってみる			SELECT、UPDATE、DELETを使ってSQLサーバーを体験する。		
9～10	正規化			正規化、関数従属とキー、正規化の手順を学ぶ。		
11～15	制約			PRIMARY KEY制約、UNIQUE制約、CHECK制約、FOREIGN KEY制約について実証して学ぶ。		
16～19	SQLステートメントの基本			データを並べ替える（ORDER BY）、WHERE句、そのほかの演算子を学ぶ。		
20～23	SQLステートメントの応用			集計関数とグループ化、複数テーブルの結合、外部結合（OUTER JOIN）、3つ以上のテーブルの結合を学ぶ。		
24～28	テーブル関連の操作とデータのインポート・エクスポート			IDENTITYプロパティ、TRUNCATE TABLE、DEFAULT値、CSVファイルのエクスポート、データインポートを学		
29～30	照合順序、データ型			照合順序、データ型を学ぶ。		
31～34	関数とユーザー定義関数			文字列操作関数、日付時刻関数、変換関数、数値操作関数、ユーザー定義関数を学ぶ。		
35～36	Transact-SQLの基本			Transact-SQLの構成要素、動的SQL、TOP句、MERGE、順位付け関数、ページング、テーブル変数を学ぶ。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題または試験75%、平常点25% 提出物、学習意欲、授業態度などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。				課題の提出期限を守ること。		
実務経験教員の経歴		オープン系システム開発運用において7年間、Web系に8年間関わっていた				

科目名	Webプログラミング				
担当教員	片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科／高度ITシステム科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	CMS(コンテンツ・マネジメント・システム)の概要を理解する。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)	WordPressを使ったホームページの構築を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社ソーテック社 『いちばんやさしいWordPress入門教室』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	WordPressの初期設定		開発環境の準備をする。XAMPPのダウンロード、インストールをする。		
2	投稿ページを作る		カテゴリー設定、お知らせ投稿、ブロックエディターを学ぶ。		
3	固定ページを作る		トップページ、投稿一覧ページを作成し、ブロック機能を拡張してページを作成する。		
4~8	問合せページを作る		メールフォーム、お問い合わせページ、自動送信メール設定、プライバシーポリシーを作成する。		
9~13	トップページを仕上げる		トップページの構成、スライドショーの設置、トップページのコンテンツを作成する。		
14~17	共通パーツを設定する		ナビゲーションメニュー、フッターにウィジェットを設置、ウィジェットの種類を学ぶ。		
18~27	Webサイト運用の知識		SSL、バックアップ、セキュリティ対策、アクセス解析、SNSとの連携を学ぶ。		
28~30	応用例		付属のテーマを活用方法、企業サイトの作成例、飲食店サイトの作成例、クリエイターサイトの作成例を学ぶ。		

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	Java Script				
担当教員	片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科／高度ITシステム科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40
授業概要、目的、授業の進め方	Java Scriptの基礎を学び、ホームページ制作におけるHTMLやCSSとの関連も含めて知識の向上と技術の習得を図る。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 （到達目標）	Java Scriptを使ったホームページの制作ができることを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	SBクリエイティブ株式会社　『確かな力が身につくJavaScript「超」入門』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～2	Java Scriptsの導入		JavaScriptの概要を学び、ツール、サンプルデータの設定をする。		
3～4	アウトプットの基本		記述方法、ルールを学ぶ。		
5～9	文法と基本的な機能①		ダイアログボックス、変数、定数、条件分岐IF、条件分岐elseIFなどを学ぶ。		
10～14	文法と基本的な機能②		比較演算子、データ型、論理演算子、繰り返し、ファンクションなどを学ぶ。		
15～19	文法と基本的な機能③		配列、HTMLに出力、プロパティ読み取りなどを学ぶ。		
20～24	インプットとデータ加工		フォームの入力内容を取得、イベント、日時を表示（Date）、少数第〇位で切捨（Math）などを学ぶ。		
25～29	一歩進んだテクニック		カウントダウンタイマー、プルダウンメニュー、クッキー、イメージ切替、スライドショーなどを学ぶ。		
30～34	jQueryの導入		開閉式ナビメニュー、ドロワー（CSSアニメ）、空席状況チェック（Ajax、JSON）などを学ぶ。		
35～40	外部データを活用したアプリケーション		位置情報、WebAPIを学ぶ。		

科目名		PHP				
担当教員		片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科		情報システム科／高度ITシステム科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数		時間数	27
授業概要、目的、授業の進め方		PHPの基礎知識とSQL接続を学ぶ。				
授業形態		対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)		PHPの基本的な知識を学び、アンケートシステムを構築する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		株式会社リックテレコム　『いきなりはじめるPHP』				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	PHPの概要			サーバーサイド言語としてのPHPの概要を学ぶ。		
2	環境設定			Xamppをダウンロード、インストール、設定する。		
3～4	HTML、CSS			HTML、CSSの基礎を学ぶ。		
5～8	入力ページ			入力ページを作成する。		
9～10	データの受取			postメソッドを学ぶ。		
11～12	変数			変数にデータをコピーする。		
13～14	入力チェック機能			if命令を学ぶ。		
15～16	項目の追加			項目の追加・削除を方法を学ぶ。		
17～18	ページ移動			history.backを学ぶ。		
19～20	入力データのチェック			else命令を学ぶ。		
21～22	サンクスページ			文字列の連結方法を学ぶ。		
23～24	自動返信メール			mb_send_mailを学ぶ。		
25～27	データベース			phpMySQL操作方法を学ぶ。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題または試験75%、平常点25% 提出物、学習意欲、授業態度などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。				課題の提出期限を守ること。		
実務経験教員の経歴		オープン系システム開発運用において7年間、Web系に8年間関わっていた				

科目名		Linux				
担当教員		片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科		情報システム科／高度ITシステム科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	44
授業概要、目的、授業の進め方		Linux（CentOs）をインストールし、Webサーバーを構築しながら基本操作を学ぶ。				
授業形態		対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)		Linuxの基本的なコマンドを覚える。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		株式会社技術評論社　『ゼロからわかるLinuxWebサーバー超入門』				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	デュアルOS（WindowsとLinux）			Hyper-Vをダウンロード、インストールする。		
2	サーバーOSについて			CentOSをインストールする。		
3～22	CentOS、ファイルを操作する			ファイルを操作するコマンドを学ぶ。		
23～27	rootユーザーについて			ユーザーとグループを学ぶ。		
28～29	Webサーバーを立てる			WebサーバーApacheをインストール、設定をする。		
30～31	セキュリティ			ファイヤーウォールの設定をする。		
32～33	ブラウザから接続する			IPアドレスでアクセスする。		
34～36	viエディタを使う			viエディタを利用してhtmlファイルをサーバー上で編集する。		
37～39	リモートから操作			SSHでリモートから操作する。		
40～42	ファイル転送			TeraTermやWinSCPを使ってファイルを転送する。		
43～44	PHPを使う			PHPをインストール、設定し動作確認をする。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題または試験75%、平常点25% 提出物、学習意欲、授業態度などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。				課題の提出期限を守ること。		
実務経験教員の経歴		オープン系システム開発運用において7年間、Web系に8年間関わっていた				

科目名	PC設定				
担当教員	片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科／高度ITシステム科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	10
授業概要、目的、 授業の進め方	各自のノートPCの環境設定を行なう。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)	今後の授業に必要な環境を構築する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ノートPC				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～5	ノートPCの環境設定①		Office 365のダウンロード、インストール、設定、動作確認。		
6～10	ノートPCの環境設定②		Ms Teamsのダウンロード、インストール、設定、動作確認。 Access2016のインストール、動作確認。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
平常点100% 提出物、学習意欲、授業態度などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下) とする。			各自ノートPCを用意する。		
実務経験教員の経歴	オープン系システム開発運用において7年間、Web系に8年間関わっていた				

科目名	プログラミング実習Ⅱ				
担当教員	片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科／高度ITシステム科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	20
授業概要、目的、 授業の進め方	Unityの使用法とC#を学習し、3Dゲームアプリを作成する。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)	3Dゲームアプリの課題を作成できる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	技術評論社『作って学べるUnityVRアプリ開発入門』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	VRとは		VRの仕組み、VRの映像処理、VRゴーグルの紹介、VR活 用事例、VRの注意点を学ぶ。		
2	Unityとは		Unityの歴史、高機能、アセットストア、サービス、マル チプラットフォーム、採用実績を学ぶ。		
3	開発環境		Unityの導入、Android開発、iOS開発で必要なものを学 ぶ。		
4	Unityをインストールしてみよう		Unityをダウンロード、インストール、アカウントの準備 を学ぶ。		
5	Android開発の準備をしよう		Android開発の準備を学ぶ。		
6	iOS開発の準備をしよう		AppleIDの作成、Xcodenoインストールを学ぶ。		
7	プロジェクトを作成してみよう		Unityの起動とプロジェクトの作成、シーン、アセットを 学ぶ。		
8	Unityのインターフェースをみてみよう		Unity画面構成、ウィンドウレイアウトの変更を学ぶ。		
9	シーンにモノを配置してみよう		シーンビュー、インスペクター、ヒエラルキーを学ぶ。		
10	Unityにおけるモノの表現について学ぼう		ゲームオブジェクト、コンポーネントを学ぶ。		
11	シーンを実行してみよう		シーンの実行と停止、ゲームビューとカメラ設定を学ぶ。		
12	ゲームの企画を考えよう		VRの特徴とそれを活かしたゲーム、ゲームを構成する要 素を学ぶ。		
13	プロジェクトの作成と準備をしてみよう		プロジェクトを作成、シーン保存、アセットストアを使 う、アセットをシーンに配置を学ぶ。		
14～16	スクリプトを書いてみよう		スクリプトについて学ぼう、Unityによって提供されるク ラスを学ぶ。		
17	スクリプトでオブジェクトを動かそう		3Dの数学、カメラの回転を学ぶ。		
18	弾を打って敵を倒そう		弾の作成、ブレハブ化、スクリプト生成、物理エンジン、 当たり判定、衝突時処理を学ぶ。		
19	ゲームのルールを作ろう		UI、UIレイアウト、UIコンポーネント、時間カウント、 スコア表示、リザルト表示を学ぶ。		
20	VRに対応しよう		UnityVR設定、挙動などを学ぶ。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
課題75%、平常点25% 提出物、学習意欲、授業態度などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下) とする。			課題の提出期限を守ること。		
実務経験教員の経歴	オープン系システム開発運用において7年間、Web系に8年間関わっていた				

科目名	Access基礎				
担当教員	村島敏治		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科／高度ITシステム科/情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	36
授業概要、目的、 授業の進め方	Accessビジネスデータベース技能認定試験３級の合格に必要な知識を学ぶ。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)	Accessビジネスデータベース技能認定試験３級レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	株式会社ウイネット　『Access2016クイックマスター』『Accessビジネスデータベース技能認定試験問題集』				
回数			学習方法・準備学習・備考		
1～2	Accessの基本操作、データベースファイルの作成		Accessの起動、データベースオブジェクト、データベースファイルの新規作成などを学ぶ。		
3～4	テーブル		テーブルの新規作成、主キーの設定、フィールドの追加、インポートなどを学ぶ。		
5～6	クエリ		クエリの概要、選択クエリの新規作成、並べ替え、抽出、演算フィールドなどを学ぶ。		
7～8	フォーム、レポート		フォームの概要、フォームの新規作成、編集、レポートの概要、レポートの新規作成、印刷などを学ぶ。		
9～10	リレーションシップ、マクロ		リレーションシップの概要、テーブルの結合、マクロの概要、マクロの作成と実行などを学ぶ。		
11～12	アプリケーション活用		データベースの設計、テーブルの作成、入力画面の作成、リストの作成などを学ぶ。		
13～16	実技練習問題１～４		問題演習と解説。		
17～20	実技練習問題５～７		問題演習と解説。		
21～25	模擬問題１～３		問題演習と解説。		
26～30	検定受験対策		問題演習と解説。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果75%、平常点25% 提出物、学習意欲、授業態度などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。			問題演習はホームワークとなる場合がある。		
実務経験教員の経歴			-		

科目名	Access応用				
担当教員	村島敏治		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科／高度ITシステム科/情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	34
授業概要、目的、 授業の進め方	Accessビジネスデータベース技能認定試験２級の合格に必要な知識を学ぶ。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 （到達目標）	Accessビジネスデータベース技能認定試験２級レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	株式会社ウイネット　『Access2016クイックマスター』 『Accessビジネスデータベース技能認定試験問題集』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	実技練習問題１、テーマ別知識練習問題１・２		問題演習と解説。		
4～6	実技練習問題２、テーマ別知識練習問題３・４		問題演習と解説。		
7～9	実技練習問題３、テーマ別知識練習問題５・６		問題演習と解説。		
10～12	実技練習問題４、テーマ別知識練習問題７		問題演習と解説。		
13～19	模擬問題１		問題演習と解説。		
20～26	模擬問題２		問題演習と解説。		
27～34	模擬問題３		問題演習と解説。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果75%、平常点25% 提出物、学習意欲、授業態度などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下) とする。			問題演習はホームワークとなる場合がある。		
実務経験教員の経歴		-			

科目名	就職実務				
担当教員	片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科／高度ITシステム科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	60
授業概要、目的、授業の進め方	1. 就職活動に必要な知識、情報を得る。 2. 筆記試験練習（一般常識、SPI、CAB・GAB）を行なう。 3. 模擬面接（面接練習）を行なう。 4. SNSリスクを学ぶ。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 （到達目標）	実際に就職活動を行なえる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社ウイネット 『勝つための就職ガイドSUCCESS』 エルテス 『SNSのリスク』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	就職活動の心構え①		なぜ就職するのか、企業が求める人材とは、身だしなみなどを学ぶ。		
2	就職活動の心構え②		就職活動の流れ、就職活動のルールと諸注意、求職登録と校内模擬面接などを学ぶ。		
3～4	自分と職業を理解する①		ライフスタイルを考える、自己分析で考えるポイント、自己PRの作り方などを学ぶ		
5～7	自分と職業を理解する②		業種と職種、仕事と関連資格、志望動機の作り方を学ぶ。		
8～9	情報収集のポイント、企業研究の方法		情報の収集方法と活用ポイント、就職課の利用、就職情報サイトの利用、求人票の見方などを学ぶ。		
10	作成書類①		エントリーシートの書き方、履歴書の書き方などを学ぶ。		
11	作成書類②		履歴書の下書きを作成する。		
12	企業訪問		企業訪問とは、企業訪問の準備、アポイントメントの取り方などを学ぶ。		
13	就職試験		就職試験の概要などを学ぶ。		
14	面接試験対策①		面接試験の形式、面接試験の受け答えなどを学ぶ。		
15	面接試験対策②		圧迫面接、スピーチの訓練、本番前の自己チェックなどを学ぶ。		
16	筆記試験対策		適性検査、一般常識、作文・小論文などを学ぶ。		
17	受験後の報告		内定したときにすべきこと、不合格だったときの振り返りなどを学ぶ。		
18～19	履歴書の作成		履歴書の清書を完成する。		
20～22	求職票の作成		求職票を完成する。		
23～35	筆記試験問題演習		一般常識試験、SPI、CAB・GABなどの問題演習を行なう。		
36～50	面接準備、練習		面接の準備をし、模擬面接を行なう。		
51～60	SNSリスク		SNSに関するリスクと対策を学ぶ。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
就職活動状況75%、平常点25% 提出物、学習意欲、授業態度、就職活動などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。			履歴書、求職票の提出期限を厳守する。		
実務経験教員の経歴	オープン系システム開発運用において7年間、Web系に8年間関わっていた				

科目名		AI概論				
担当教員		佐藤 修一		実務授業の有無	○	
対象学科		情報システム科/高度ITシステム科/情報ビジネス科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、 授業の進め方		①授業の目的…AI（人工知能）への理解を深め、AIをシステム実装する手段と、AIを社会実装するために抑えておくべき事項を理解する。 ②授業の進め方…「講義（知識習得）」→「演習（開発体験）」→「課題（知識定着）」の3コマ1セットを基本とする。				
授業形態		遠隔授業の実施				
学習目標 （到達目標）		①人工知能（機械学習）による予測や識別のAIモデルを、Python言語を使用して記述できる。 ②サーティファイが主催する「AI検定」について、検定の受験対策を自らで計画・遂行できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①新潟人工知能研究所 オリジナル教材（パワーポイント） ②サーティファイ「AIリテラシー講座【AI検定®対応】」				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～3	AIの開発基盤・Pythonの基礎			AIの実装を支える技術基盤について全体像を把握する。 AIプログラミングに必要なPythonの基礎を理解する。		
4～6	データの前処理・可視化・基礎分析			分析対象となるデータについて、前処理と可視化を行うとともに、基礎分析による仮説を立てる。		
7～9	機械学習の学習と予測			機械学習における、学習と予測のステップを学び、従来型のプログラミングとの違いを理解する。		
10～12	教師あり学習（回帰・分類演習）			機械学習ライブラリの使用方法を理解して、教師あり学習の手法を学ぶ。		
13～15	教師なし学習（クラスタリング・主成分分析演習）			機械学習ライブラリの使用方法を理解して、教師なし学習の手法を学ぶ。		
16～18	画像認識（ニューラルネットワーク演習）			ニューラルネットワークを用いて、画像データに映っている物体を認識・分類する手法を学ぶ。		
19～21	強化学習（Q-Learning演習）			強化学習の理論を学び、迷路探索を題材にして、その理論を実践する。		
22～24	自然言語処理（BERT・Transformer演習）			自然言語を扱うための最新手法を学び、自然言語処理の社会実装について検討する。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
演習課題75%、平常点25%				筆記試験は行いません。授業内で出題する演習課題の提出状況		
成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。				に、授業への参加状況、学習意欲を加味して評定を行います。		
実務経験教員の経歴		AI人材の育成に5年間従事。同時にデータサイエンス業務に2年間従事。				

科目名		プログラミング				
担当教員		村島敏治		実務授業の有無	○	
対象学科		情報システム科／高度ITシステム科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方		Pythonの基礎から実践的なアプリケーションの開発まで学ぶ。				
授業形態		対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)		Pythonの基本文法を学びオブジェクト指向の理解を深める。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		株式会社技術評論社　『Python実践入門』				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～3	Pythonはどのような言語か			プログラミング言語としての特徴、歴史、現況、コミュニティの特徴		
4～6	Pythonのインストールと開発者向けの便利な機能			Pythonのインストールと実行		
7～9	制御フロー			基本文法、条件分岐、ループ、例外処理		
10～12	データ構造			None,真理値、数値、文字列、配列、辞書、集合、内包表記		
13～16	関数			関数、lambda式、型ヒント		
17～21	クラスとインスタンス			Pythonのクラス機構、インスタンス、クラス、クラス継承		
22～26	モジュールとパッケージ、名前空間とスコープ			モジュール、パッケージ、インポート、名前空間と変数のスコープ		
27～31	組み込み関数と特殊メソッド			組み込み関数、特殊メソッド		
32～34	Python特有の様々な機能			ジェネレータ、デコレータ、コンテキストマネージャー、デスク립タ		
35～36	並列処理			平行処理、並列処理、concurrent.futuresモジュール、asyncioモジュール		
37～39	開発環境とパッケージの管理			仮想環境、パッケージの利用、パッケージの作成		
40～43	ユニットテスト			ユニットテストの導入、unittestモジュール、unittest.mockモジュール、ユースケース別テスト		
44～48	実践的なPythonアプリケーションの開発			作成するアプリケーション、プロジェクトの作成、アプリケーションの開発、コマンドとして実行		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
検定結果75%、平常点25% 提出物、学習意欲、授業態度などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。				問題演習はホームワークとなる場合がある。		
実務経験教員の経歴						

科目名	ビジネス文書				
担当教員	若井彩香		実務授業の有無	無	
対象学科	情報システム科／高度ITシステム科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	12
授業概要、目的、 授業の進め方	ビジネス文書検定３級の合格に必要な知識を学ぶ。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)	ビジネス文書検定３級レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	株式会社早稲田教育出版　『ビジネス文書検定受験ガイド、ビジネス文書検定実問題集』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	表記技能①		総合、常用漢字、現代仮名遣い、送り仮名などを学ぶ。		
2	表記技能②		一般の用語、同音異義語、異字同訓語、慣用の手紙用語な どを学ぶ。		
3	表現技能①		類義語の使い分け、表題、箇条書き、図表などを学ぶ。		
4	表現技能②		敬称、尊敬語、謙譲語、丁寧な言葉遣い、手紙のエチケッ トなどを学ぶ。		
5～6	実務技能		社内文書、社外文書、受発信事務、機密文書、郵便などを 学ぶ。		
7～9	第１～２回模擬試験		問題演習と解説。		
10～12	第３～４回模擬試験		問題演習と解説。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果75%、平常点25%					
成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下) とする。					
実務経験教員の経歴			-		

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	ビジネス著作権				
担当教員	片野史高		実務授業の有無	無	
対象学科	情報システム科／高度ITシステム科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	33
授業概要、目的、授業の進め方	サーティファイ『ビジネス著作権検定ベーシック』の合格を目指し、著作権に関する知識について基礎的な理解・具体的な裁判例・ビジネス実務における慣例を基準とする事例判断での応用力を養う。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)	サーティファイ『ビジネス著作権検定ベーシック』合格を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社ウイネット『ビジネス著作権検定ベーシック初級テキスト』、株式会社サーティファイ『ビジネス著作権初級問題集』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	著作権の概要		検定内容、範囲、著作権の性質を学ぶ。		
2～3	著作物の定義と著作者の定義		著作物の種類、著作者と著作権者などを学ぶ。		
4～7	著作者の権利		人格権、公表権をはじめ様々な著作者の権利を学ぶ。		
8	保護期間		保護期間と登録制度、国際的保護を学ぶ。		
9～10	譲渡と利用許諾		著作権の譲渡に関わる注意、共同著作、権利消滅を学ぶ。		
11～13	権利制限規定		著作権の制限を学ぶ。		
14～15	著作隣接権		隣接権の内容、制限、保護期間を学ぶ。		
16～17	著作権の侵害		侵害、侵害罪、民事的対策を学ぶ。		
18	知的財産権制度と情報モラル		情報モラルと著作権、プライバシーに関する制度を学ぶ。		
19～33	練習問題		ベーシック・初級問題集を解く。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果75%、平常点25% 提出物、学習意欲、授業態度などを加味する。 成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。			学習範囲が広く覚えることも多いので、練習問題をしっかり取り組み、苦手問題を克服していくことで力を養う。		
実務経験教員の経歴	オープン系システム開発運用において7年間、Web系に8年間関わっていた				

[illegible]

科目名	社会人常識マナー					
担当教員	若井彩香			実務授業の有無	×	
対象学科	情報システム科／高度ITシステム科		対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修		単位数		時間数	10
授業概要、目的、 授業の進め方	一般常識や社会人として必要となるビジネススキルを学ぶ。					
学習目標 (到達目標)	1.組織図、一般常識、敬語の種類を理解する。2.社会人常識マナー検定3級を取得する。					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級、全国経理教育協会 社会人常識マナー検定試 験最新過去問題集3級、その他配布資料					
回数	授業項目、内容			学习方法・準備学習・備考		
1	社会常識1 社会と組織			社会人としての自覚や雇用形態をテキストや配布資料をもとに学ぶ。		
2	社会常識2 仕事と成果			目標を持つことの重要性や組織についてテキストや配布資料をもとに学ぶ。		
3	社会常識3 一般知識、ビジネス計算			基本的なビジネス用語や計算、県庁所在地、漢字についてプリントでの書き取りを行う。		
4	社会常識4 職場のマナー			出勤時から退勤時までのマナーをテキストや配布資料をもとに学ぶ。		
5	社会常識5 来客応対			基本なお客様応対についてテキストや配布資料をもとに学ぶ。その後確認プリントを実施する。		
6	社会常識6 電話応対			電話の取次ぎ、掛け方についてテキストや配布資料をもとに学ぶ。その後確認プリントを実施する。		
7～10	社会常識7 過去問題1～8、解説			社会人常識マナー検定 最新過去問題集第21回～28回を時検対策を行う。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
検定結果70%、課題15%、学習意欲15%				必要部分をテキストで確認した後、確認プリントを実施し要点の理解を深める。検定の直前期となったら自宅学習として課題の配布を行う。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。						
実務経験教員の経歴						

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	プレゼンテーション				
担当教員	片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科／高度ITシステム科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	10
授業概要、目的、 授業の進め方	プレゼンテーションの基礎的な知識とPowerPoint2016を使っでの効果的なプレゼンテーションの制作方法を学ぶ。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)	PowerPoint2016を使っでのプレゼンテーションの制作と効果的なプレゼンテーションのスキルを習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	株式会社ウイネット 『PowerPoint2016クイックマスター』、株式会社サーティファイ『PowerPoint2016問題集』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	プレゼンテーション概論		プレゼンテーションの基礎、方法、テクニックを学ぶ。		
2～5	PowerPointの基本操作		PowerPoint2016の画面構成、機能、基本操作を学ぶ。		
6	アプリケーション活用		実践的ケースを通じてプレゼンテーションを作成することで応用力を学ぶ。		
7～10	課題＆プレゼンテーション		課題のテーマに従いプレゼンテーションを作成、発表。		
</					

科目名	卒業研究				
担当教員	片野史高		実務授業の有無	○	
対象学科	情報システム科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	264
授業概要、目的、授業の進め方	各グループで研究テーマを選定し、アプリケーションソフトを制作する。				
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
学習目標 (到達目標)	アプリケーションソフトを完成させ、発表会にてプレゼンを行なう。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	研究テーマに沿って、各自で用意する。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～20	テーマ選定		卒業研究のテーマを選定し、共同研究のグループを決定する。		
21～30	計画立案		日程計画、役割分担などの計画を策定する。		
31～100	制作		制作を行う。		
101～106	中間発表会		中間発表を行う。		
107～259	制作		制作を行う。		
260～264	発表会		最終発表を行う。		
			</		

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	illustrator実習				
担当教員	大関 馨		実務授業の有無	○	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	通期
必修・選択	必修	単位数		時間数	140
授業概要、目的、授業の進め方	アドビソフト『illustrator』の習得を通し、ポスター、チラシ、書籍表紙などの特に印刷用平面図案を作成する技術を身に付ける。 外部からの制作依頼も受け、実践的な作品作りに臨む。				
学習目標 (到達目標)	上記ソフトの習得 上記ソフト利用検定の取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウイネット刊『illustratorクイックマスター』『Photoshop』クイックマスター				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～10	illustrator基本操作		『illustratorクイックマスター』テキストP 8～P 28		
11～20	オブジェクトの基本操作①		『illustratorクイックマスター』テキストP 30～P 38		
21～30	オブジェクトの基本操作②		『illustratorクイックマスター』テキストP 39～P 49		
31～40	レイアウト機能		『illustratorクイックマスター』テキストP 50～P 59		
51～60	パスツール①		『illustratorクイックマスター』テキストP 60～P 69		
61～70	パスツール②		『illustratorクイックマスター』テキストP 70～P 75		
71～80	カラー設定 レイヤー 文字		『illustratorクイックマスター』テキストP 76～P 124		
81～140	作品制作		各種コンペ応募、仕事依頼に合わせて進める。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
作品制作40% 制作進行管理（締切を守る）30% 学習意欲30% 成績評価基準：A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)			実際の作品制作を通してソフトを習得していく。そのため、ソフトの習得だけではなく、作品の到達度、進行管理などにも注力し、自らの制作実績の履歴を厚くしていくことを大きな目標とすること。		
実務経験教員の経歴	グラフィックデザイナーとして個人事務所を経営				

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	Photoshop実習				
担当教員	大関 馨		実務授業の有無	○	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	通期
必修・選択	必修	単位数		時間数	140
授業概要、目的、授業の進め方	アドビソフト『Photoshop』の習得を通し、ポスター、チラシ、書籍表紙などの特に印刷用平面図案を作成する技術を身に付ける。 外部からの制作依頼も受け、実践的な作品作りに臨む。				
学習目標 (到達目標)	上記ソフトの習得 上記ソフト利用検定の取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ウイネット刊『illustratorクイックマスター』『Photoshop』クイックマスター				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～10	Photoshop基本操作		『Photoshopクイックマスター』テキストP 2～P 32		
11～20	選択範囲の作成		『Photoshopクイックマスター』テキストP 34～P 47		
21～30	画像の移動と変形		『Photoshopクイックマスター』テキストP 48～P 61		
31～40	カラーモード 色調補正		『Photoshopクイックマスター』テキストP 62～P 75		
51～60	ペイント		『Photoshopクイックマスター』テキストP 76～P 101		
61～70	レイヤー操作		『Photoshopクイックマスター』テキストP 102～P 117		
71～80	パス シェイプ		『Photoshopクイックマスター』テキストP 118～P 131		
81～90	テキスト		『Photoshopクイックマスター』テキストP 132～P 138		
91～140	作品制作		各種コンペ応募、仕事依頼に合わせて進める。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
作品制作40％ 制作進行管理（締切を守る）30％ 学習意欲30％ 成績評価基準：A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)			実際の作品制作を通してソフトを習得していく。そのため、ソフトの習得だけではなく、作品の到達度、進行管理などにも注力し、自らの制作実績の履歴を厚くしていくことを大きな目標とすること。		
実務経験教員の経歴	グラフィックデザイナーとして個人事務所を経営				

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	D T P				
担当教員	大関 馨		実務授業の有無	○	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位数		時間数	25
授業概要、目的、授業の進め方	主に印刷技術についての知識を学び、課題制作を通しD T P技術の実践力を身に付ける。				
学習目標 (到達目標)	制作物を実際に印刷にかけ、広報物を完成させる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ソフトバンククリエイティブ刊『デザインの基本ノート』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～4	写真 補正 レタッチ トリミング		『デザインの基本ノート』4章P94～P100を参考に 学科作成プリントによるワーク		
5～8	図版の作り方		『デザインの基本ノート』4章P102～P105を参考に 学科作成プリントによるワーク		
9～12	画像解像度 データ管理の仕方		『デザインの基本ノート』4章106～110を参考に説明		
13～16	図版の整理法		『デザインの基本ノート』4章P111～P119を参考に説明		
17～20	写真 イラストの活用		『デザインの基本ノート』4章P120～P123を参考に 学科作成プリントによるワーク		
21～24	制作進行の知識		『デザインの基本ノート』5章		

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名		修了制作				
担当教員		大関 馨／片野 史高		実務授業の有無	○	
対象学科		高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	25
授業概要、目的、授業の進め方		・ 修了制作時間にあててる。				
学習目標 (到達目標)		作品の完成 作品集の完成				
テキスト・教材・参考図書・その他資料						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～10	コンセプトワーク			制作の内容を検討、相談し制作進行手順を決定する。		
11～20	作品制作			進行状況の確認		
21～25	プレゼンテーション			講評会		
				</		

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	ドローイング				
担当教員	米山 貴訓		実務授業の有無	○	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	通期
必修・選択	選択	単位数		時間数	99
授業概要、目的、授業の進め方	人、物、風景などを描く基礎、画材の使用法、デッサン法を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	見たものを自分の手で再現できる描画法を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	学科作成プリント 写真資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～10	えんぴつの使い方		削り方や持ち方を実践させる。		
11～20	平行線、四角形、丸の描き方		コツを示し、ひたすら同じ作業を続ける。		
21～30	顔の描き方		コツを示し、練習させる。		
31～40	身体の骨と筋肉		人体の成り立ちについて学び、骨と筋肉の図を模写する。		
41～50	デッサン法		モチーフのスケールを計る方法を教える。		
51～55	ポーズの描き方		クラスメートをモデルに短時間で交代しながら描く練習。		
56～60	ポーズの描き方		クラスメートをモデルに短時間で交代しながら描く練習。		
61～65	手、足の描き方		コツを示し、モチーフ写真を模写する。		
66～70	生活小物の描き方		コツを示し、モチーフ写真を模写する。		
71～75	パース		学科作成プリント配布を使用し練習する。		
76～80	家 風景の描き方		学科作成プリント配布を使用し練習する。		
81～85	樹木の描き方		コツを示し、練習させる。		
86～90	乗り物の描き方		コツを示し、練習させる。		
91～99	まとめ		作品の提出		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
学習意欲50% 課題制作50%			モノをよく見て、その特徴を正確にとらえるデッサン力を鍛えることが大事。描画法を頼りに授業外の日常的な観察眼を磨いていくことをテーマとする。		
成績評価基準：A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)					
実務経験教員の経歴	イラストレーターとして新潟、東京中心に活動している				

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	illustratorクリエイター能力認定試験(スタンダード)				
担当教員	山本 拓志		実務授業の有無	○	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位数		時間数	39
授業概要、目的、授業の進め方	illustratorクリエイター能力認定試験(ペーシック)模擬問題集を解く				
学習目標 (到達目標)	illustratorクリエイター能力認定試験(ペーシック)取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	illustratorクリエイター能力認定試験(ペーシック)問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～10	illustratorクリエイター能力認定試験(ペーシック)模擬問題 1.		問題集P9～32(解答解説を手順にする)		
11～20	illustratorクリエイター能力認定試験(ペーシック)模擬問題 2.		問題集P34～56(解答解説を手順にする)		
21～30	illustratorクリエイター能力認定試験(ペーシック)模擬問題 3.		問題集P57～89(解答解説を手順にする)		
31～39	illustratorクリエイター能力認定試験(ペーシック)模擬問題 4.		問題集P90～100(解答解説を手順にする)		
	</				

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	Photoshopクリエイター能力認定試験(スタンダード)				
担当教員	今井 毅		実務授業の有無	○	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位数		時間数	45
授業概要、目的、授業の進め方	Photoshopクリエイター能力認定試験(ペーシック)模擬問題集を解く				
学習目標 (到達目標)	Photoshopクリエイター能力認定試験(ペーシック)取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Photoshopクリエイター能力認定試験(ペーシック)問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～10	Photoshopクリエイター能力認定試験(ペーシック)模擬問題 1.		問題集P15～42(解答解説を手順にする)		
11～20	Photoshopクリエイター能力認定試験(ペーシック)模擬問題 2.		問題集P43～68(解答解説を手順にする)		
21～30	Photoshopクリエイター能力認定試験(ペーシック)サンプル問題		問題集P147～162(解答解説を手順にする)		
31～45	まとめ		過去問題		
</					

科目名	Word文書処理技能検定(3級)				
担当教員	酒井 理恵子		実務授業の有無	×	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位数		時間数	39
授業概要、目的、 授業の進め方	Word文書処理技能検定(3級)の合格に必要な知識を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	Word文書処理技能検定(3級)レベルの知識を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	ウイネット Word2016クイックマスター、Word文書処理技能検定(3級)問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	練習問題 1		問題集P2～7(解答解説を手順にする)		
3～6	練習問題 2		問題集P8～15(解答解説を手順にする)		
7～9	練習問題 3		問題集P16～24(解答解説を手順にする)		
10～12	模擬問題 1		問題集P26～33(解答解説を手順にする)		
13～15	模擬問題 2		問題集P34～41(解答解説を手順にする)		
16～18	模擬問題 3		問題集P42～48(解答解説を手順にする)		
19～21	模擬問題 4		問題集P49～56(解答解説を手順にする)		
22～24	模擬問題 5		問題集P57～65(解答解説を手順にする)		
25～27	模擬問題 6		問題集P66～73(解答解説を手順にする)		
28～30	模擬問題 7		問題集P74～82(解答解説を手順にする)		
31～33	まとめ		問題集(解答解説を手順にする)		
34～36	まとめ		問題集(解答解説を手順にする)		
37～39	まとめ		問題集(解答解説を手順にする)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定結果75%、平常点25%			問題演習はホームワークとなる場合がある。		
成績評定基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)とする。					
実務経験教員の経歴					

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	色彩検定（3級）				
担当教員	今井 毅		実務授業の有無	○	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	通期
必修・選択	選択	単位数		時間数	84
授業概要、目的、 授業の進め方	・色の知識、色彩構成を学ぶ。 ・色彩検定の受験 色彩検定テキスト、問題集のワークを中心に進める。 ・特に配色の考え方を実践的なレベルで身に付ける。				
学習目標 （到達目標）	・色彩検定3級の取得				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	色彩検定協会刊『色彩検定公式テキスト』『同問題集』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～9	色のはたらき		『色彩検定公式テキスト』 P 4		
10～18	光と色		『色彩検定公式テキスト』 P 4 ～ P 23		
19～27	色の表示		『色彩検定公式テキスト』 P 24～P 40		
28～36	色彩心理		『色彩検定公式テキスト』 P 42～P 58		
37～45	色彩調和		『色彩検定公式テキスト』 P 62～P 86		
46～54	色彩効果 色彩と生活		『色彩検定公式テキスト』 P 90～P 95		
55～63	ファッション		『色彩検定公式テキスト』 P 98～P 104		
64～72	インテリア		『色彩検定公式テキスト』 P 106～P 110		
73～81	慣用色名		『色彩検定公式テキスト』 P 112～P 117		
82～84	過去問題		『同問題集』		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定取得30％ 課題制作50％ 授業意欲20％ 成績評価基準：A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)			色相環作成やカラーダイヤル、カラーカードを利用したワークなど色の構成を理論と実践で身に付けます。根気強く取り組む姿勢が検定取得につながります。		
実務経験教員の経歴	グラフィックデザイナーとして個人事務所を経営				

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	マルチメディア検定				
担当教員	酒井 理恵子		実務授業の有無	×	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	選択	単位数		時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	マルチメディアに関わる専門知識を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	・マルチメディアに関わる知識を持ち、デジタル機器、ネットワークなどの利用に役立てる。 ・CG・ARTS協会主催の検定を取得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	CG・ARTS刊『入門マルチメディア』『入門CGデザイン』				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	マルチメディア、デジタル端末の特徴		『入門マルチメディア』1章～2章		
4～6	コンテンツ制作のためのメディア処理		『入門マルチメディア』3章		
7～9	インターネット 通信とサービス		『入門マルチメディア』4章～5章		
10～12	デジタル技術とライフスタイル		『入門マルチメディア』6章～7章		
13～15	社会の中のマルチメディア		『入門マルチメディア』8章		
16～18	情報リテラシー		『入門マルチメディア』9章		
19～21	CG技術の歴史と特性		『入門CGデザイン』1章		
22～24	CGの表現基礎		『入門CGデザイン』2章		
25～27	2次元と3次元 CGの制作方法		『入門CGデザイン』3章～4章		
28～30	ハードウェアとソフトウェア デジタルデータの運用		『入門CGデザイン』5章～6章		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
検定取得40％ 問題集解答結果40％ 学習意欲20％ 成績評価基準：A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)			他授業での進めていく実技と合わせ、実際に現場で応用できる知識として習得すること。検定対策として、単なる用語の記憶だけではなく、成り立ちについて詳しく説明できる能力として習得すること。		
実務経験教員の経歴					

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	オリエンテーション				
担当教員	酒井 理恵子		実務授業の有無	×	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	10
授業概要、目的、 授業の進め方	・実践行動学を学ぶ				
学習目標 (到達目標)	・実践行動学を学ぶ				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	実践行動学 テキスト				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	実践行動学パート3		テキスト（パート3）グループディスカッション中心		
4～6	実践行動学パート3		テキスト（パート3）グループディスカッション中心		
7～10	実践行動学パート3		テキスト（パート3）グループディスカッション中心		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
・出席状況 成績評価基準：A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)			・自分を知る		
実務経験教員の経歴					

科目名	就職実務				
担当教員	片野 史高		実務授業の有無	○	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	71
授業概要、目的、 授業の進め方	・履歴書作成、採用試験（筆記、面接）対応 ・長く働き続けるために職場での人間関係、マナーを学ぶ。 ・労働法について学ぶ。 ・自らのキャリアプラン、ワークライフバランスを計画する。				
学習目標 (到達目標)	・採用試験を経て企業内定を頂くこと。 ・キャリア形成への意識を強く持つこと。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	エルテス 『SNSのリスク』 厚生労働省刊『働くことと労働法』 学科作成プリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1・2	デジタルリスク概論・企業の危機意識		テキストを読み進めるとともに身近なニュースに触れながら理解を深める		
3・4	ソーシャルメディアとデジタルリスク・ソーシャルメディアの社会的位置づけ		テキストを読み進めるとともに身近なニュースに触れながら理解を深める		
5・6	ソーシャルメディアの機能的な特性・ソーシャルメディアのテクノロジー		テキストを読み進めるとともに身近なニュースに触れながら理解を深める		
7・8	ソーシャルメディアに関する法制度・ソーシャルメディアと企業コミュニケーション		テキストを読み進めるとともに身近なニュースに触れながら理解を深める		
9・10	ソーシャルメディアについて企業が抱える問題・要因と課題		テキストを読み進めるとともに身近なニュースに触れながら理解を深める		
11・12	要因と課題についての事例研究・解決策と防止策		テキストを読み進めるとともに身近なニュースに触れながら理解を深める		
13・14	解決策と防止策についての事例研究・デジタルリスクマネジメント・リスクマネジメントのデジタル化		テキストを読み進めるとともに身近なニュースに触れながら理解を深める		
15～17	キャリアとは何か		『働くことと労働法』活用		
18～20	ワークライフバランスについて		『働くことと労働法』活用		
21～23	職場の人間関係について		『働くことと労働法』活用		
24～26	会話術		学科作成プリント 実習 個別相談		
27～29	個別面接指導		学科作成プリント 個別対応		
30～32	作文構成術		学科作成プリント 実習		
33～35	面接問答訓練		集団面接訓練 個別面接訓練		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準:A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)			履歴書、求職票の提出期限を厳守する。		
実務経験教員の経歴					

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名		制作実習				
担当教員		酒井 理恵子		実務授業の有無	×	
対象学科		高度ＩＴシステム科	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択		選択	単位数		時間数	71
授業概要、目的、授業の進め方		・自己制作（資料収集や授業課題のアイデアだしなどの時間）				
学習目標 （到達目標）		・コンペ等入賞				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		・iPad				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1～4	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
5～8	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
9～12	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
13～16	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
17～20	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
21～24	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
25～28	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
29～32	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
33～36	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
37～40	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
41～44	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
45～48	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
49～52	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
53～56	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
57～60	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
61～64	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
65～71	資料収集や授業課題のアイデアだし			iPad/アプリ		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
授業意欲100% 成績評価基準：A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)				iPadの活用		
実務経験教員の経歴						

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名		A I 応用				
担当教員		佐藤 修一		実務授業の有無	○	
対象学科		高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択		選択	単位数		時間数	434
授業概要、目的、 授業の進め方		・ A I に関する知識をより深く学び、現代には欠かせない A I 分野のスペシャリストを目指す ・ Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める				
学習目標 (到達目標)		・ G 検定合格 (7月実施) ・ E 検定合格 (12月実施)				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		日本ディープラーニング協会監修 『ディープラーニング G検定公式テキスト』 翔泳社				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
4月	・ 人工知能 (A I) とは・ 人工知能をめぐる動向・ 人工知能分野の問題			Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める		
5月	・ 機械学習の具体的手法・ ディープラーニングの概要・ ディープラーニングの手法			Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める		
6月	・ ディープラーニングの研究分野・ ディープラーニングの応用に向けて (1)、 (2)			Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める		
7月	検定問題			Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める		
8月	ディープラーニング研究 応用 (1)			Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める		
9月	ディープラーニング研究 応用 (2)			Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める		
10月	ディープラーニング研究 応用 (3)			Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める		
11月	ディープラーニング研究 応用 (4)			Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める		
12月	検定問題			Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める		
1月	事例研究			Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める		
2月	事例研究			Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
授業意欲100% 成績評価基準：A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)				P C ・ iPad の活用		
実務経験教員の経歴		AI人材の育成に5年間従事。同時にデータサイエンス業務に2年間従事。				

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	G 検定対策				
担当教員	佐藤 修一		実務授業の有無	○	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位数		時間数	81
授業概要、目的、 授業の進め方	・ A I に関する知識をより深く学び、現代には欠かせない A I 分野のスペシャリストを目指す ・ Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める				
学習目標 (到達目標)	・ G 検定合格（7月実施）				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	日本ディープラーニング協会監修 『ディープラーニング G検定公式テキスト』翔泳社 他				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
4月	テキストを用いて自習する		不明点については担当教員へチャットを用いて質問する		
5月	テキストを用いて自習する		不明点については担当教員へチャットを用いて質問する		
6月	テキストを用いて自習する		不明点については担当教員へチャットを用いて質問する		
7月	検定対策（問題集を解く）				

②

長岡公務員・情報ビジネス専門学校 シラバス

科目名	E 検定対策				
担当教員	佐藤 修一		実務授業の有無	○	
対象学科	高度ITシステム科	対象学年	3	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数		時間数	225
授業概要、目的、授業の進め方	・ A I に関する知識をより深く学び、現代には欠かせない A I 分野のスペシャリストを目指す ・ Teamsを繋げてチャット形式、及びオンライン形式で進める				
学習目標 (到達目標)	・ E 検定合格（12月実施）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本ディープラーニング協会監修 『ディープラーニング G検定公式テキスト』翔泳社 他				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
7月	テキストを用いて自習する		不明点については担当教員へチャットを用いて質問する		
8月	テキストを用いて自習する		不明点については担当教員へチャットを用いて質問する		
9月	テキストを用いて自習する		不明点については担当教員へチャットを用いて質問する		
10月	テキストを用いて自習する		不明点については担当教員へチャットを用いて質問する		
11月	検定対策（問題集を解く）				
12月	検定対策（問題集を解く）				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
授業意欲100% 成績評価基準：A(80点以上)・B(60点以上)・C(41点以上)・D(40点以下)			P C ・ iPadの活用		
実務経験教員の経歴	AI人材の育成に5年間従事。同時にデータサイエンス業務に2年間従事。				